

科目名	精神看護学実習 Psychiatric and Mental Health Nursing Practice		担当教員 (研究室番号)	木戸 芳史 (402) 前川 早苗 (広域分野)		教員への連絡方法 (メールアドレス)						
履修 年次	2年次	科目 区分	専門科目	選択 区分	コース 必修	単位数 (時間)	6(270)	授業 形態	実習	科目等 履修生	可	
科目 目的	精神的困難を抱える個人および集団に対する援助において、精神看護専門看護師と指導教員によるスーパーバイズのもとで実践実習を行い、高度な看護実践（精神療法を含む）、相談、関係者間の調整、倫理的調整、教育的介入、研究を自律的に行う能力を養う。											
到達 目標	1)精神看護における専門看護師の機能と役割を理解し、実践の場で遂行することができる。 2)精神科患者やその家族の疾病・療養上の問題に対して、エビデンスに基づく高度な専門的知識・技術・判断能力を用いて質の高い看護援助の実践および看護援助の開発を行うことができる。 3)精神保健医療チームの一員としてリーダーシップを発揮し、ケアの質を向上させることができる。											
成績評価方法 (基準)	・行動目標に沿って、専門看護師としての基礎的な実践能力の修得を『精神看護学実習評価表』を用いて評価する。 ・事前学習、実習内容、カンファレンスでのディスカッション、実習出席状況、実習記録、実習後の課題レポート、自己評価、実習成果報告会、実習施設の指導者からのコメントを含めて総合的に評価する。											
教科書	随時紹介する。											
参考書等	随時紹介する。											
受講者への メッセージ	高度な臨床判断や実践能力を体得するのはもちろん、それらの高度実践に関する根拠や意図を、他者が理解できるレベルで説明することができるよう意識して実習に臨んでください。											
備考												
学 習 内 容												
<p>実習Ⅰ（精神看護専門看護師の機能と役割実習）約2週間と実習Ⅱ（精神看護高度実践実習）約4週間の計6週間以上の実習を行う。実習Ⅰ終了後に、行動目標に照らして到達状況の評価し、実習Ⅱの課題を明確にする。</p> <p>1) 事前学習 これまでの講義と演習で修得した内容を統合し、事前レポート、実習計画書、実習記録類一式を作成する。実習計画書の作成にあたっては、実習施設との調整を主体的に行う。また、実習記録類の作成にあたっては、指導教員および実習指導者のスーパービジョンを受ける。</p> <p>2) 実習内容 実習Ⅰ、実習Ⅱのそれぞれの主な実習内容および共通の実習内容は以下の通りである。</p> <p>①実習Ⅰ（精神看護専門看護師の機能と役割実習） 精神看護専門看護師が所属する施設において、精神看護専門看護師の指導の下に、専門看護師の機能と役割（相談・調整・倫理調整・教育・研究）について見学・参画しながら実習する。</p> <p>②実習Ⅱ（精神看護高度実践実習） ・複雑な問題を抱えた患者や家族2～3事例を受け持ち、高度な看護援助を実践する。 ・複雑な問題を抱えた患者や家族への援助に対して、精神看護専門看護師の機能と役割（相談・調整・倫理調整・教育・研究）を実践する。 ・精神科の臨床現場における課題やニーズに対して、専門看護師の機能・役割を総合的に用いた介入を行う。</p> <p>③共通の実習内容 ・他スタッフとの協働：実習施設の様々な職種のスタッフと連携して実習を行う。 ・スーパーバイズ：学生は、実習指導者からのスーパーバイズを毎日受けるとともに、精神専門看護師から定期的にスーパーバイズを受ける。さらに、定期的の実習内容の記録を教員に提出し、スーパーバイズを受ける。 ・カンファレンス：各実習最終日、または必要に応じて実習指導者、指導教員とともに実習内容のまとめ、到達度、今後の課題についてカンファレンスを行う。 ・援助場面の再構築：プロセスレコードを用いて患者・家族およびケア提供者との相互作用を分析し、自己洞察と他者理解を深める。 ・実習内容の記録：実習内容を事前学習で作成した記録用紙に記録し、各実習終了後に記録類一式をまとめて指導教員に提出する。</p>												